

6 農林試第 7 7 5 号－ 4
令和 6 年 7 月 2 日

各関係機関団体の長
各病虫害防除員

} 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和6年度病虫害発生予察技術報第4号について

このことについて、病虫害発生予察技術情報第4号を発表したので送付します。
侵入害虫であるトマトキバガのフェロモントラップへの誘殺が、本年度、広い範囲で確認されており、6月の誘殺数が急増しています。
県外ではトマトへの被害が確認されており、警戒が必要です。ほ場での発生に十分注意してください。

技術情報第4号

1 対象作物名：トマト、ミニトマト

2 病虫害名：トマトキバガ

3 発生状況

(1) トマトキバガは、国内では令和3年10月に熊本県で初確認されたのを皮切りに、現在39道府県で発生が確認されている。

県内では令和4年3月にフェロモントラップをトマト及びナスほ場周辺13か所に設置したところ、同月に2か所で雄成虫が誘殺された。同トラップ調査において、令和4年度中に13か所のうち12か所で誘殺が確認された。

(2) 令和6年度6月において、県内のトマト及びナスのほ場周辺6か所に設置したすべてのトラップで誘殺が確認された。誘殺数は昨年同時期よりも多く、特に福岡市では、6月5半旬の誘殺数が45頭と急増している(図1)。

現在までに県内における農作物への被害は確認されていないが、他県ではトマト、ミニトマトへの被害が確認されている。

4 防除上注意すべき事項

ア 成虫は翅を閉じた状態で体長5～7mmと小型である(写真1)。幼虫は、終齢で約8mm程度となり、体色は淡緑色～淡赤白色で、前胸の背面後縁に狭い黒色横帯を有する(写真2)。

イ トマト葉への食害は、幼虫が緑色の部分を食べ、薄皮だけが広範囲に残り白変する(写真3)。果実への食害は、食入により穴が生じる(写真4、5)。

ウ 国内で発生が確認された作物はトマト及びミニトマトのみであるが、海外では、ナス、タバコ、バレイショ、ホオズキ等のナス科作物やマメ科のインゲンマメも寄主植物として確認されている。

エ トマトキバガの発生が疑われる場合、農林業総合試験場病虫害部予察課または各地区の普及指導センターに連絡するとともに下記対策を行う。

オ 被害葉及び被害果は、ほ場外への分散を防ぐため、速やかに薬剤防除を行った上で、ほ場内から持ち出すとともに、野外に放置せずに適切に処分する。

カ トマト及びミニトマトにおいて、本虫に対する登録農薬は別表のとおりである。薬剤防除にあた

っては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、IRAC コードが異なる薬剤のローテーション散布を行う。

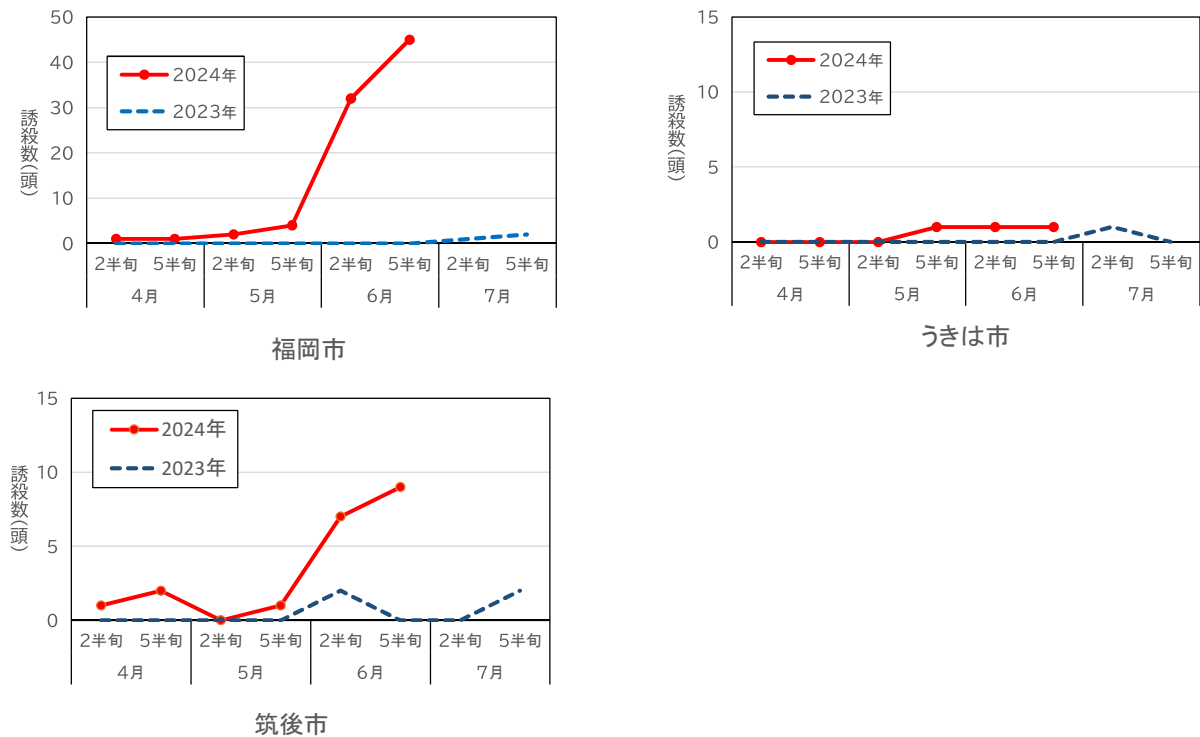


図1 フェロモントラップにおけるトマトキバガの誘殺成虫数

【写真提供：熊本県病害虫防除所】

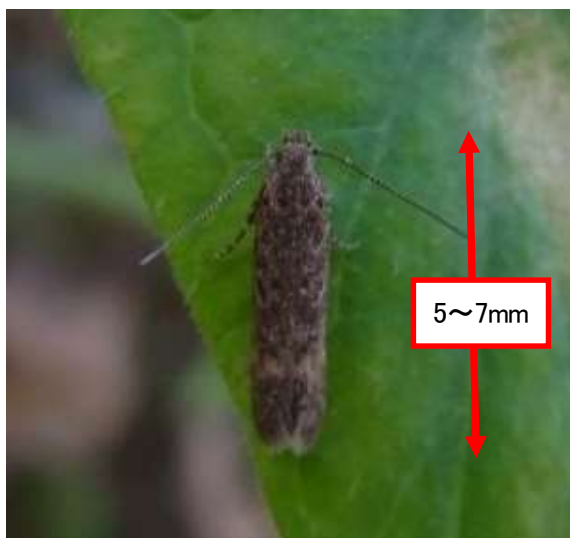


写真1 トマトキバガ成虫



写真2 トマトキバガ幼虫



写真3 葉の食害痕



写真4 果実の食害痕



写真5 果実内部に寄生した幼虫

病害虫防除所のホームページでは、各種病害虫の発生状況を随時更新しています。
発生状況の把握や防除の参考にご活用下さい。

○福岡県病害虫防除所のホームページへのアクセス

URL: <https://www.jppn.ne.jp/fukuoka/> または右QRコード①

○X (旧 Twitter) で定期情報や警報等発出をお知らせしています。

X (旧 Twitter) の本アカウント (福岡県農作物病害虫情報) へのアクセス

URL: https://x.com/PPDPO_Fukuoka または右QRコード②



最新の病害虫発生状況



別表 トマトキバガに対する防除薬剤

農薬の名称	登録の有無		IRAC コード	農薬の種類	使用時期	希釈倍数使用量	使用方法	本剤の使用回数
	トマト	ミニトマト						
ディアナ SC	○	○	5	スピネトラム水和剤	収穫前日まで	2500～5000 倍	散布	合計 2 回以内
ラディアント SC	○	○	5	スピネトラム水和剤	収穫前日まで	2500～5000 倍	散布	
ダブルシューターSE	○	○	UNE・5	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	2 回以内
アフーム乳剤	○	○	6	エマメクチン安息香酸塩乳剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	5 回以内
アグリメック	○	×	6	アバメクチン乳剤	収穫前日まで	500～1000 倍	散布	3 回以内
エスマルク DF	○	○	11A	BT 水和剤	発生初期 但し、収穫前日まで	1000 倍	散布	-
コテツフロアブル	○	○	13	クロルフェナピル水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	3 回以内
トルネードエース DF	○	×	22A	インドキサカルブ水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2 回以内
アクセルフロアブル	○	○	22B	メタフルミゾン水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	3 回以内
ベリマーク SC	○	○	28	シアントラニリプロール水和剤	育苗期後半～定植当日	400 株当たり 25mL	灌注	いずれか 1 回
プリロッソ粒剤	○	○	28	シアントラニリプロール粒剤	育苗期後半～定植時	2g/株	株元散布	
プリロッソ粒剤オメガ	○	○	28	シアントラニリプロール粒剤	育苗期後半～定植時	2g/株	株元散布	
ベネビア OD	○	○	28	シアントラニリプロール水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	3 回以内
ヨーバルフロアブル	○	○	28	テトラニリプロール水和剤	収穫前日まで	2500 倍	散布	3 回以内
フェニックス顆粒水和剤	○	○	28	フルベンジアミド水和剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2 回以内
プレオフロアブル	○	○	UN	ピリダリル水和剤	収穫前日まで	1000 倍	散布	2 回以内
グレーシア乳剤	○	○	30	フルキサメタミド乳剤	収穫前日まで	2000 倍	散布	2 回以内

(2024 年 6 月 1 日時点)

